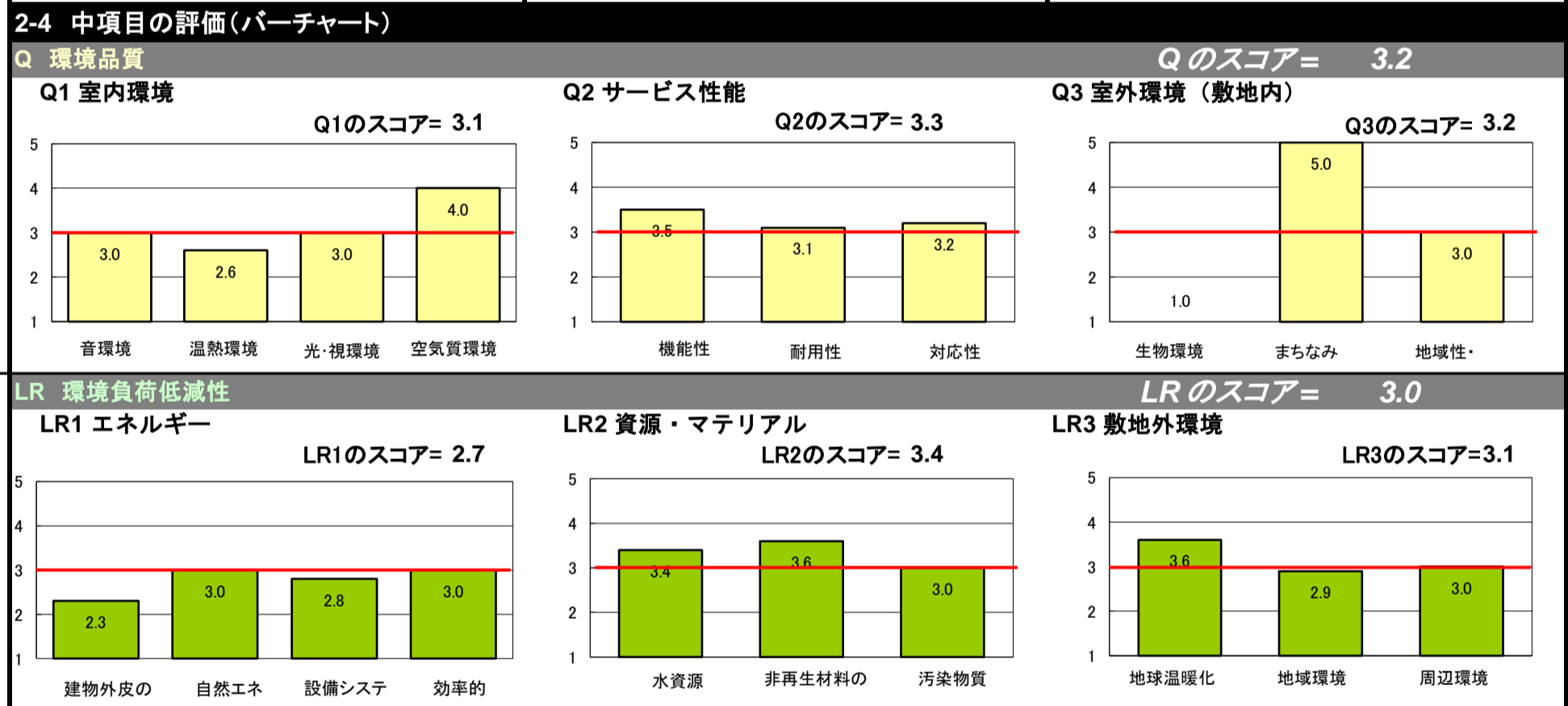
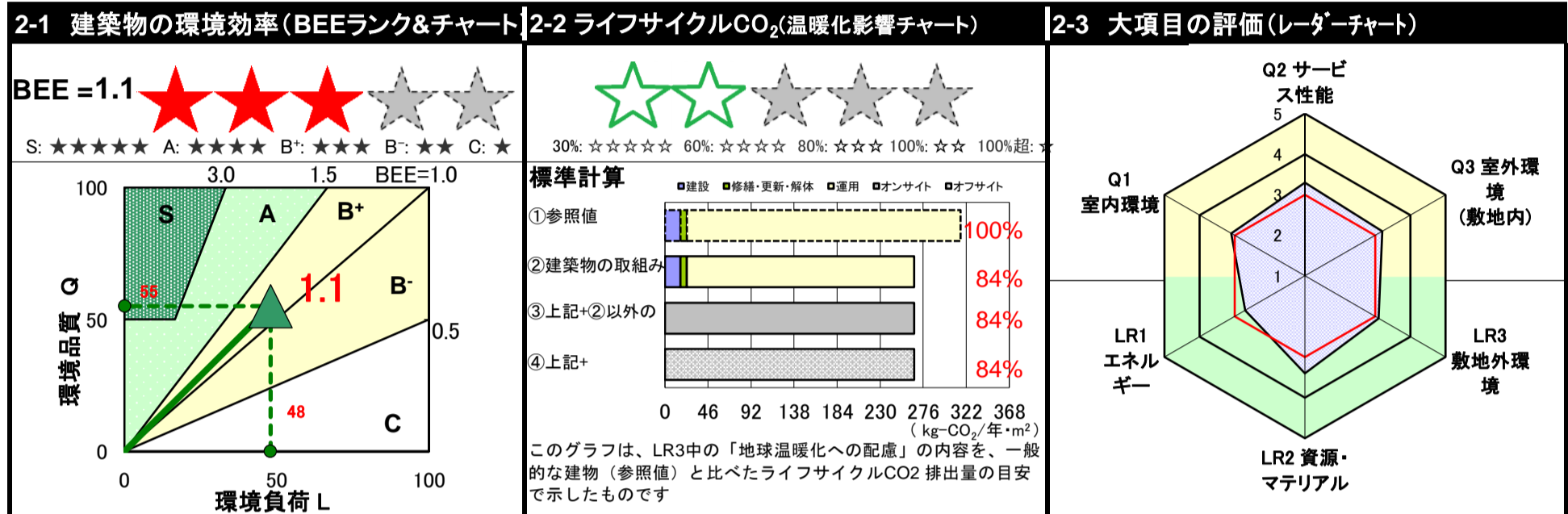


CASBEE[®] あいち

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)μ PLAT東岡崎	階数	地上3階
建設地	愛知県 岡崎市 岡崎市明大寺本町四丁目70 他64筆	構造	S造
用途地域	近隣商業地域、準防火地域	平均居住人員	579 人
気候区分	6地域	年間使用時間	5,293 時間/年
建物用途	物販店、飲食店	評価の段階	実施設計段階評価
竣工時期	2024年3月 予定	評価の実施日	2023年6月7日
敷地面積	15,055 m ²	作成者	寺田 穂
建築面積	1,079 m ²	確認日	2023年6月7日
延床面積	2,989 m ²	確認者	岩治 洋



3 重点項目					
<p>①地球温暖化への配慮</p> <p>3.6</p>	<p>③敷地内の緑化</p> <p>1.0</p> <table border="1"> <tr> <td>外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)</td> <td>0.0 %</td> </tr> <tr> <td>建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)</td> <td>0.0 %</td> </tr> </table>	外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)	0.0 %	建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)	0.0 %
外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)	0.0 %				
建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)	0.0 %				
<p>②資源の有効活用</p> <p>3.3</p>	<p>④地域材の活用</p> <p>3.0</p> <p><外装材に使用した地域性のある材料></p> <p>岡崎市の特産品である石材を使用し街並みの調和に寄与した。</p> <p><建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材></p> <p>なし</p>				

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮
LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用
Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性
LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化
Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$

みんなの環境活動を応援しています

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き
(仮称)μ PLAT東岡崎

欄に数値またはコメントを記入

■使用評価マニュアル:
■評価ソフト:

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き
CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

スコアシート		実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄						全体
配慮項目	独自基準	評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数	全体		
	重点項目								建物全体・共用部分	建物全体・共用部分
Q 建築物の環境品質									3.2	
Q1 室内環境									3.1	
1 音環境									3.0	
1.1 室内騒音レベル									3.0	
1.2 遮音									0.4	
1 開口部遮音性能									3.0	
2 界壁遮音性能									3.0	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)									3.0	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)									3.0	
1.3 吸音									3.0	
2 温熱環境									2.6	
2.1 室温制御									0.5	
1 室温									3.0	
2 外皮性能									3.0	
3 ゾーン別制御性									3.0	
2.2 湿度制御									3.0	
2.3 空調方式									3.0	
3 光・視環境									3.0	
3.1 昼光利用									0.2	
1 昼光率									0.6	
2 方位別開口									3.0	
3 昼光利用設備									3.0	
3.2 グレア対策									-	
1 昼光制御									5.0	
3.3 照度									3.0	
3.4 照明制御									3.0	
4 空気環境									4.0	
4.1 発生源対策									0.2	
1 化学汚染物質									0.5	
ホルムアルデヒド・VOC等の放散量が少ない建築材料をほぼ全面的に採用。									3.0	
4.2 換気									0.3	
1 換気量									3.0	
2 自然換気性能									3.0	
3 取り入れ外気への配慮									3.0	
4.3 運用管理									0.2	
1 CO ₂ の監視									3.0	
2 喫煙の制御									3.0	
Q2 サービス性能									3.3	
1 機能性									3.5	
1.1 機能性・使いやすさ									0.4	
1 広さ・収納性									0.4	
2 高度情報通信設備対応									3.0	
3 バリアフリー計画									3.0	
1.2 心理性・快適性									0.3	
1 広さ感・景観 (天井高)									3.0	
2 リフレッシュスペース									3.0	
3 内装計画									3.0	
1.3 維持管理									0.3	
1 維持管理に配慮した設計									3.0	
2 維持管理用機能の確保									4.0	
建物全体でコンセプトを立て、内装・照明計画を一体で行っている。									4.0	
防汚性の高い内外装材を用い、維持管理のしやすさに配慮している。									4.0	
清掃用エリアを拡充させ、維持管理のしやすさに配慮している。									4.0	
2 耐用性・信頼性									3.1	
2.1 耐震・免震・制震・制振									0.3	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)									0.4	
2 免震・制震・制振性能									3.0	
2.2 部品・部材の耐用年数									0.3	
1 躯体材料の耐用年数									3.0	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔									5.0	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔									3.0	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔									3.0	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔									3.0	
6 主要設備機器の更新必要間隔									3.0	
2.4 信頼性									0.1	
1 空調・換気設備									3.0	
2 給排水・衛生設備									3.0	
3 電気設備									3.0	
4 機械・配管支持方法									3.0	
5 通信・情報設備									2.0	
非常用電源設備や無停電電源設備を設置し、信頼性が向上するよう配慮。支持金物は耐震クラスAを選定し、地震時の変形に対応できるよう計画。									4.0	

3 対応性・更新性				0.2	3.2	0.29	-	-	-	3.2
3.1 空間のゆとり				0.3	3.6	0.31	-	-	-	
1	階高のゆとり		3.7m以上の階高を確保し、建物の更新性に配慮した。	-	4.0	0.60	-	3.0	-	
2	空間の形状・自由さ			3.0	3.0	0.40	-	3.0	-	
3.2 荷重のゆとり				3.0	3.0	0.31	-	3.0	-	
3.3 設備の更新性				0.3	3.2	0.38	-	-	-	
1	空調配管の更新性	②		-	3.0	0.17	-	-	-	
2	給排水管の更新性			3.0	3.0	0.17	-	-	-	
3	電気配線の更新性			3.0	3.0	0.11	-	-	-	
4	通信配線の更新性			3.0	3.0	0.11	-	-	-	
5	設備機器の更新性		設備機器のメンテナンススペースを確保し、更新性に配慮した。	3.0	4.0	0.22	-	-	-	
6	バックアップスペースの確保			3.0	3.0	0.22	-	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)					-	0.30	-	-	-	3.2
1 生物環境の保全と創出		独自③		-	1.0	0.30	-	-	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮		独自④	岡崎市の特産品である石材を使用し街並みの調和に寄与した。	-	5.0	0.40	-	-	-	5.0
3 地域性・アメニティへの配慮				0.3	3.0	0.30	-	-	-	3.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		独自④		-	3.0	0.50	-	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上				-	3.0	0.50	-	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性					-	-	-	-	-	3.0
LR1 エネルギー					-	0.40	-	-	-	2.7
1 建物外皮の熱負荷抑制			外壁の断熱性能を高め、熱負荷を抑制するよう配慮した。	3.0	2.3	0.30	-	-	-	2.3
2 自然エネルギー利用				3.0	3.0	0.20	-	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化			BEI=0.83	3.0	2.8	0.30	-	-	-	2.8
4 効率的運用				0.2	3.0	0.20	-	-	-	3.0
集合住宅以外の評価				1.0	3.0	1.00	-	-	-	
4.1	モニタリング			3.0	3.0	0.50	-	-	-	
4.2	運用管理体制			3.0	3.0	0.50	-	-	-	
集合住宅の評価				-	-	-	-	-	-	
4.1	モニタリング			-	3.0	-	-	-	-	
4.2	運用管理体制			-	3.0	-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル					-	0.30	-	-	-	3.4
1 水資源保護				0.1	3.4	0.15	-	-	-	3.4
1.1 節水			節水コマ・節水型機器を選定し、省エネルギーに配慮した。	3.0	4.0	0.40	-	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				0.6	3.0	0.60	-	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無			3.0	3.0	0.67	-	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無			3.0	3.0	0.33	-	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減				0.6	3.6	0.63	-	-	-	3.6
2.1 材料使用量の削減				-	2.0	0.07	-	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用				-	3.0	0.24	-	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		②	-	-	3.0	0.20	-	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		独自	再生砕石を路盤材に、合板型枠をコンクリート型枠に使用した。	3.0	4.0	0.20	-	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材				3.0	3.0	0.05	-	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		独自	躯体と仕上材が容易に分別可能な構造形式とした。	3.0	5.0	0.24	-	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避				0.2	3.0	0.22	-	-	-	3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用				3.0	3.0	0.32	-	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避				0.6	3.0	0.68	-	-	-	
1	消火剤			-	-	-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)			-	3.0	0.50	-	-	-	
3	冷媒			3.0	3.0	0.50	-	-	-	
LR3 敷地外環境					-	0.30	-	-	-	3.1
1 地球温暖化への配慮		①	ライフサイクルCO2排出率84%	-	3.6	0.33	-	-	-	3.6
2 地域環境への配慮				0.3	2.9	0.33	-	-	-	2.9
2.1 大気汚染防止				-	3.0	0.25	-	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善				-	3.0	0.50	-	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制				0.2	2.7	0.25	-	-	-	
1	雨水排水負荷低減	独自		-	3.0	0.25	-	-	-	
2	汚水処理負荷抑制			-	3.0	0.25	-	-	-	
3	交通負荷抑制	独自		-	3.0	0.25	-	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制			-	2.0	0.25	-	-	-	
3 周辺環境への配慮				0.3	3.0	0.33	-	-	-	3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				0.4	3.0	0.40	-	-	-	
1	騒音	独自		-	3.0	0.33	-	-	-	
2	振動	独自		-	3.0	0.33	-	-	-	
3	悪臭			-	3.0	0.33	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制				0.4	3.0	0.40	-	-	-	
1	風害の抑制			-	3.0	0.70	-	-	-	
2	砂塵の抑制			-	3.0	-	-	-	-	
3	日照障害の抑制			-	3.0	0.30	-	-	-	
3.3 光害の抑制				0.2	3.0	0.20	-	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策			-	3.0	0.70	-	-	-	
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策			-	3.0	0.30	-	-	-	

重点項目スコアシート
(仮称) μ PLAT東岡崎

実施設計段階

■使用評価マニュアル CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き
■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

重点項目(配慮項目)	評価点	全体に対する重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策			3.6
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.6	0.10
② 資源の有効活用			3.3
Q2-2	耐震性・信頼性	3.1	0.09
Q2-3	対応性・更新性	3.2	0.09
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.6	0.19
③ 敷地内の緑化			1.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.09
			外構緑化:0%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用		(評価ポイント)	3.0
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	2.0	-
			岡崎市の特産品である石材を使用し街並みの調和に寄与した。
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-
			なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化
重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和
重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用
重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 (仮称)μ PLAT東岡崎

計画上の配慮事項	
総合	<ul style="list-style-type: none"> ・地域材を使用し、地域の魅力向上に寄与する。 ・建物の更新性やメンテナンス性へ配慮する。
Q1 室内環境	ホルムアルデヒド・VOC等の放散量が少ない建築材料をほぼ全面的に採用するなど、空気質環境の向上に配慮した。
Q2 サービス性能	快適な空間となるよう建物全体でコンセプトを立て、内装・照明計画を一体で行っている。また、防汚性の高い内外装材を採用し、清掃用エリアを拡充させること維持管理のしやすさにも配慮した。建物の階高は3.7m以上、設備機器には十分なメンテナンススペースを確保し、建物・設備の更新性に配慮した。
Q3 室外環境(敷地内)	低層のボリュームとすることで周辺建物と一体性をもたせながらも、ガラスサッシの採用により奥行き感のある計画とした。
LR1 エネルギー	外壁の断熱性能を高め、建物の熱負荷を抑制するよう配慮した。
LR2 資源・マテリアル	節水コマ・節水型機器を選定し、省エネルギーに配慮した。また、躯体と仕上材が容易に分別可能な構造形式とし、部材の再利用性の向上に努めた。
LR3 敷地外環境	卓越風向に対する見付面積を小さくする、屋根に高反射材料を選定する等、温熱環境悪化の改善につながるよう配慮した。
その他	特になし